



神奈川東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2014-2015年度 R I 会長 ゲイリー C.K. ホアン



第2590地区 ガバナー
大野 清一

- 会 長 山田 正憲
- 会長エレクト 江森 国一
- 副 会 長 天野 公史
- 副 会 長 鴻 義久
- 幹 事 植田 清司
- 副 幹 事 朝日 達夫
- 会 計 渡 邊 淳
- 副 会 計 白井 康夫
- S A A 小 山 市 康
- 副 S A A 長 井 章
- 副 S A A 青 柳 紀
- クラブ会報 竹 山 洋



写真提供 小池将夫会員

事務局 ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555

例会日 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第5金曜日 6 : 00 PM)

例会場 ホテルキャメロットジャパン

創立記念日 昭和 51 年 5 月 29 日

U R L <http://www.kanagawahigashi.com/>

E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

2014-2015年度 第38週報 No. 1879 2015年(平成27年) 4月10日 第1879回例会記録 4月17日発行

司 会 朝日 達夫 副幹事

点 鐘 山田 正憲 会長

斉 唱 「我等の生業」

四つのテスト 角田 伯雄 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 奈良原 裕 様 (ゲストスピーカー)

ビジター紹介 神奈川 R C 金野 克佐 様
横浜北 R C 近藤 晶宏 様
横浜西 R C 浅見 秀一 様

会長報告 山田 正憲 会長

- ・ 4月16~18日に台北滬尾RCの公式訪問に10名で行ってきます。
- ・ 4月8日、植田幹事、吉田会員、私とで横浜北RCの35周年式典に参加して来ました。

幹事報告 植田 清司 幹事

- ・ 本日、例会終了後に4月度定例理事会を開催致します。



本日〈4月17日〉のプログラム

- ◆ 斉 唱 「それこそロータリー」
 - ◆ 献 立 メカジキのタブナード風
 - ◆ 卓 話 「相続対策『上手な遺言の作成方法は?』
~知ってトクする遺言の活用~」
- 横浜銀行 新子安支店 支店長 比留川知子 様
(紹介者 飯田 泰之 会員)

<<本日のBGM>>

「Best of My Love、Walking in the Air 外」

スマイルボックス 長井 章 副SAA

神奈川RC 金野克佐様 本日もお世話になります。
横浜北RC 近藤晶宏様 先日の横浜北RCの35周年例会に、多くの神奈川東RCの皆様にご出席頂きまして、ありがとうございます。
横浜西RC 浅見秀一様 メーキャップに参りました。よろしくお願いします。

山田正憲君 ①奈良原裕様、本日のお話、楽しみにしています。②第1テーブルミーティング参加の皆様、お疲れ様でした。③加野さん、テーブルマスターありがとうございました。

青柳 紀君 河野さん、昨夜はソムリエ朝日さんをお借りしてすみませんでした。

山本 登君 ①今日は、当院 奈良原Dr.の卓話です。よろしく。②昨日の第1テーブルミーティング、お疲れ様でした。

河野明光君 ①加野テーブルマスター、ご苦労様。有意義なミーティングでした。②奈良原先生、本日の卓話、よろしくお願い致します。

茂木知子さん ～バーバはこう思う～スタッフから「先生、赤ちゃんを抱いて下さい」と呼ばれて、オーナーの若いママから赤ちゃんを託され、診察が終わるまで抱いていました。オーナーが帰ってから「あの失礼ですよ。先生のことを赤ちゃんに『バーバに抱いてもらいなさい』とか『バーバがきて良かったね』とか盛んにバーバを連発していましたよ」と言われました。私は気が付きませんでした。それからは「先生どう思いますか」と言われると、「バーバはこう思う」と答えることにしています。

白鳥厚夫君 4回目のお願いですが、「神奈川東RC会員同士のコミュニケーションをより良くし、充実したロータリーライフを送るための調査」の提出を、よろしくお願い致します。

佐藤勝彦君 奈良原先生、本日の下肢静脈瘤の卓話、楽しみにしております。よろしくお願い致します。

加野亮一会員 昨晚の第1テーブルミーティングご参加の皆様、お疲れ様でした。とても有意義なお話が聞けました。ありがとうございました。

卓話

「足の血管のふくらみ～下肢静脈瘤～」

菊名記念病院 心臓血管外科 奈良原 裕 様
(紹介者 山本 登 会員)



下肢静脈瘤は、足の血管がぼこぼこ膨らみ、浮腫みや重だるさといった症状を伴う疾患です。女性に多く見られ、立ち仕事や妊娠、出産を契機に発症することが多く、進行すると皮膚病変を伴うようになります。

原因は、表在静脈弁の機能不全による血液の逆流です。飲み薬、塗り薬、貼り薬などの薬物治療は効かず、また、自然に治癒することはありません。しかし、症状が軽く放置しても生命予後には関わらないためか、発症していることに気がついていながらも、病院を受診せずに長い期間悩まれている方が多くいる特徴があります。そのような下肢静脈瘤ですが、少しずつ病状は進行し、それに伴い症状も重くなることから、皮膚病変が出る前に治療することが肝要です。

下肢静脈瘤専門外来では、パンフレットを用いて下肢静脈瘤についてわかりやすく説明し、診察と下肢静脈エコー検査から病状を正確に把握し、検査結果と症状の重さから治療方法について相談します。

治療方法には、保存的治療として弾性ストッキングや弾性包帯による圧迫療法と外科的治療があります。外科的治療には、病変血管を抜き去るストリッピング手術、病変血管を特殊なカテーテルで焼灼するラジオ波カテーテルやレーザーカテーテル手術、病変血管を薬物で閉塞させる硬化療法、数ミリ程度の皮膚切開から静脈瘤を引き出し切除する Stab Avulsion 法などがあります。実際の手術では、これらの方法を組み合わせて病状に合わせた最適な治療を提供しています。

入院期間は原則2泊3日。手術後はすぐに歩行が可能です。抜糸は不要で、手術後の外来通院は1回で済むのが通常です。

日本人の約9%に認められ、患者数は1000万人以上もいるとされている下肢静脈瘤について知っていただくことで、ご家族、ご友人の足が少し気になるようになったのなら、嬉しく思います。

4月10日	11件	18,500円
本年度累計		1,877,140円

出席報告

会員総数	54名	(32+22)名	
出席会員数	42名	(27+15)名	
出席率	89.36%		
ゲスト	1名	ビジター	3名
前回補正後	88.89%	前々回補正後	93.75%



ロータリーニュース

ウガンダ：部族コミュニティの存続を看護学校が支援

何千年もの間、バトゥワピグミー族はウガンダ南西部に位置するブウィンディ原生国立公園の中で、シルバーバック・マウンテンゴリラに囲まれながら暮らしていました。しかし1992年、絶滅の危機に瀕したシルバーバックの保護を目的にこの原生林が世界遺産に指定されたため、バトゥワ族は故郷を追われることになりました。狩猟採集民から農民になることを強いられたバトゥワ族は、新しい生活になかなか馴染めず、部族の存在自体が危機にさらされていました。

このような中、長い年月をかけ、米国、ウガンダ、そしてほかの国々のロータリー会員がバトゥワ族の支援に取り組んできました。最近では、看護学校の設立を通じてウガンダ南西部全体の医療を改善する試みが行われています。

カリフォルニア州の医師でありロータリー会員でもあるスコット・ケレルマンさんは、2000年、バトゥワ族が窮状に陥っていることを知りました。そこで彼と妻のキャロルさんは医療使節団として現地へ赴き、先住民のニーズを調査することに。スコットさんは自身の目で見た状況を「医療や教育の機会だけでなく、清潔な水や衛生設備も整備されておらず、土地や食料も不安定な状態にある、まさに赤貧」と表現しています。

スコットさんの調査により、バトゥワ族の38%は5歳未満で死亡していることが分かりました。これはウガンダ全体の平均値の2倍にあたります。また平均寿命は28歳であることも判明しました。

病院の建設

最初の訪問から程なくして、夫妻はバトゥワ族を支援するため、医業を含む私財を売り払ってウガンダへと引っ越し、2009年まで住み続けました。当初、夫妻は木の下で移動診療所を開き、点滴を木の枝に吊るして診療を行い、一日に診る患者の数は200人から300人、多い時には500人もいたとスコットさんは当時を振り返ります。やがて夫妻は基金を立ち上げ、ブウィンディ地域病院を設立しました。

これに一役買ったのが、スコットさんが持つロータリーのつながりでした。ロータリー財団から一連の助成金を受け、ウガンダや米国、ほかの国々のロータリー会員に支援されたプロジェクトにより、手術室や歯科用装置、太陽光パネル、そして清潔な水の提供が実現し、衛生状態も改善していきました。またこのプロジェクトを通じ、バトゥワ族の人びとは小さな家畜を飼育することで栄養状態を改善する方法も学びました。

現在、乳児死亡率は6%まで下がり、出産で命を落とす女性の数は60%も低下しています。

「何もかもロータリーのおかげです」とスコットさん。「ロータリーは単に資金だけを提供するのではありません。地域のロータリークラブに呼びかければ、現地のロータリアンが集結し、プロジェクトを成功へと導いてくれるのです。ロータリーは幅広い視点でプロジェクトを捉え、『病院の建設は素晴らしい。けれども疾病を予防しなきゃならない。給水や衛生状態の整備も必要だ。それに

育児について女性に教えることも大切だ』とってくれるのです」。

プロジェクトの一環として、マラリア発生の抑制を目的としたプロジェクトでは、部族の治療師を介して各家庭に何千枚もの蚊帳が配られました。

「2006年には毎週1～2人の子どもがマラリアで命を落としていました」とスコットさんは振り返ります。「しかし、ロータリーが2万5,000枚もの蚊帳の配布を支援してくれて以来、9ヶ月間、マラリアで命を落とした子どもはいません。死亡率は90%以上も減少したのです」

看護学校の設立

数年前、ジェームズ・ジェムソンさんとスティーブ・ウォルフさんの二人の起業家がこの地域でゴリラを追跡しているとき、スコットさんと出会いました。スコットさんから看護学校の必要性について聞いた二人は、看護学校の計画、設計、建設の費用として65万ドル（約7,600万円）以上もの資金を寄付。これによって、2013年11月、ウガンダ・ブウィンディ看護学校が開校しました。

両氏はさらに、ブウィンディ病院で働く正看護師のジェーン・アニャンゴさんをスコットランドのエディンバラにあるクイーンマーガレット大学へと派遣しました。この大学で看護学の修士号を取得したアニャンゴさんは、ブウィンディ看護学校の主任指導教員となりました。また、この看護学校の全学生に対し、1年分の教科書の内容が詰まったiPadも提供しました。

昨年は、国際ロータリー元副会長であるジェリー・ホールさんが看護教育者から成る職業研修チームを率いて2週間にわたり同学校のカリキュラムや指導要項の作成、運営体制の準備にあたりました。

ホールさんはロータリーの理事だった頃、以前のプロジェクトを介してスコットさんとは面識があり、この病院の戦略計画コンサルタントを務めていました。

ホールさんが所属するネバダ州のリノ・ロータリークラブは、ウガンダ・キヒヒ・ロータリークラブをはじめとする19のクラブと連携して6万7,000ドル（約790万円）を集め、この資金とロータリー財団からの補助金など合わせて247,000ドル（約2,915万円）が、同学校の備品、教室の机や椅子、実験設備のために役立てられました。

職業研修チームが帰国すると、サンフランシスコ大学に所属する一人のチームメンバーは、同大が所有する大量のデジタル情報をアニャンゴさんが利用できるように手配。また、もう一人のチームメンバーは、看護学のカリキュラムが保存されたUSBメモリをブウィンディ看護学校に送りました。「これらのテクノロジーは、ウガンダには今までになかったもの」とホールさん。「私たちの滞在中、ウガンダ看護評議会の議長が開校式に参列し、このようなテクノロジーに非常に驚いていました」

ホールさんはこう続けます。「可能性は計り知れません。研修を受けた看護師を集落や地方に派遣すれば、その土地で安全に出産を行い、子育て支援にも従事できる看護師が増えるはず。これは今までになかったことです」

エイズを題材とするドキュメンタリーで
ロータリーがテリーアワードを受賞

ロータリーの放送メディア部が制作したドキュメンタリー短編映画「Rotary Family Health Days」が、2015年テリーアワード(Telly Awards)の2つの賞を受賞しました。

テリーアワードは優れた映像作品に贈られる栄誉ある賞であり、ロータリーのこの作品は、オンラインビデオ・ドキュメンタリー部門で最高のシルバー賞、オンラインビデオ・ブランドコンテンツ・エンターテイメント部門でブロンズ賞に輝きました。南アフリカの国営テレビ局である南アフリカ放送協会をはじめ、アフリカ各地のテレビ局がこの映画を放映しました。

「勇気が出るようなニュースや、社会のためにがんばっている人たちの姿を伝えることで、外部の人たちにロータリーの活動を紹介したかった」と、プロデューサーであるアンドリュー・チャドジンスキーは話します。

このドキュメンタリーでは、アフリカの地域社会が抱えるHIV/AIDSの問題に焦点を当てながら、米国と南アフリカの2人の女性の姿を追っています。エイズで娘夫婦を亡くした南アフリカのメ・マリアさんは、2人の孫と一緒に暮らしています。孫の世話をしながら懸命に生きる彼女の姿は、観る人に感動と勇気を与えます。

一方、米国アトランタのロータリー会員、マリオン・バンチさんは、エイズで息子を亡くしたことをきっかけに、全世界でのエイズ予防活動を始めました。「ロータリー家族健康デー(Rotary Family Health Days)」の支援もその一つです。

「息子を亡くしたことで、ビジネスウーマンとしての生活から、エイズ予防と人権のために闘う人生へと変わった」と語るバンチさんは、昨年10月、ロータリーの2014年「ウーマン・オブ・アクション」の1人としてホワイトハウスで表彰されました。

ダンウッド・ロータリークラブに所属するバンチさんは、自ら設立したグループ、「Rotarians for Family Health and AIDS Prevention(家族の健康とエイズ予防のためのロータリアン)」の代表責任者を務めています。このグループは、保健プロジェクトに

力を入れているロータリークラブの支援も行っています。

今年で5年目を迎える「ロータリー家族健康デー」は、アフリカのロータリークラブの後援の下、ガーナ、ナイジェリア、南アフリカ、ウガンダなど、医療不足の問題を抱えている国々で、HIV/AIDS検査やほかの病気の予防を目的とした医療を無料で提供しています。きっかけは、2010年、ウガンダのロータリー会員であるステイブン・ムワンジさんが、さまざまな町で総合的な医療イベントをロータリーが実施するというアイデアを持ちかけたことでした。

「HIV/AIDSに感染した人のいる家族には、大きな負担がのしかかります。特に、エイズ末期の息子や娘がいて孫の世話をしなければならない高齢者や、エイズで親を亡くした孤児たちにとって、その負担は計り知れません」とバンチさん。

「これは、全世界を脅かす病気と闘うために団結する人びとのストーリーなのです」



息子をエイズで亡くしたことがきっかけでエイズ予防活動を始めたロータリー会員 マリオン・バンチさん(左)。エイズで息子夫婦を亡くし、2人の孫を懸命に育てる南アフリカのメ・マリアさんとともに。

ロータリーニュース

次回《4月24日》の卓話予定
テーマ 「未来へ日本と共に」
モンゴルからの留学生 ビルゲーン 様
(紹介者 青柳 紀 会員)

例会 4 回

3 月度出席報告

名誉会員 出席率算出除外会員

会 員	メイクアップ後	ホームクラブ	会 員	メイクアップ後	ホームクラブ	会 員	メイクアップ後	ホームクラブ	会 員	メイクアップ後	ホームクラブ	
青柳 紀	100	75	加藤 仁昭	100	100	角田 伯雄	125	75	吉田 隆男	75	75	
赤堀 和人	150	100	金森 欣一	125	100	友添 辰哉	225	100	吉橋佐干男	0	0	
朝日 達夫	125	100	加野 亮一	150	75	長井 章	100	100	我妻 隆邦	25	0	
天野 公史	150	100	小池 将夫	100	100	中野 真理	0	0	渡邊 淳	125	100	
雨宮 和則	0	0	河野 明光	125	75	中村 真巳	0	0	富居 利貞	25	25	
飯田 泰之	100	100	小山 市康	125	100	西山 潔	100	50				
伊澤 政宏	75	75	佐藤 勝彦	125	100	古澤 一憲	125	75				
石川 正三	75	75	澁谷 高弘	75	75	保坂 一成	125	75				
伊東 英紀	75	50	白井 康夫	100	25	茂木 知子	100	75				
岩澤 利雄	100	100	白鳥 厚夫	100	100	森永 健	100	75				
植田 清司	150	100	須永 久一	25	25	矢野 修二	150	75				
梅崎 興生	100	100	田口健太郎	100	100	山木 幹夫	75	75				
江森 国一	150	75	竹山 洋	100	100	山崎 善也	0	0				
大河原 理	0	0	但野真実子	125	75	山田 正憲	325	100				
鴻 義久	75	75	田中龍太郎	100	100	山本 登	125	75				
大橋 秀行	0	0	田邊 正彦	75	75	山本 芳弘	100	75				
岡部雄一郎	150	100	月山 勇	100	100	横溝 亘	100	25				
											月平均 93.65%	